

防災中枢機能を持つ災害活動拠点施設



「あらゆる災害に継続的かつ柔軟に対応する機能」
「消防力を充実強化する機能」を備えた、新たな消防活動拠点の整備を目指します。

①防災拠点としての配置計画及び動線計画

本施設は備北地区の中核を担う消防本部と三次消防署が同居し複合的な機能を持ちます。そのため各機能が十分発揮されるよう明快なゾーニングと動線計画を目指します。
非常時には1秒でも早く「出勤」して現場対応にあたることを求められており、そのための施設計画が最も重要と考えます。また、通常時には非常時への備えが円滑に行われるよう計画することが大切と考えます。

□緊急車両の安全かつ迅速な出勤を担保できる施設配置と動線計画

【非常時】

- ・メインゲートのアプローチ正面に緊急車両車庫を配置し、車両を横一列に配置することで、障害なく少ない回転動作でスムーズに出勤できるよう配慮します。
- ・メインゲートとは別にバックアップゲートを設け、進入路を2箇所確保することにより、いざという時のための緊急車両の出勤経路を確保します。
- ・資機材庫・車両関係資機材庫を出勤・帰還時に使用する室として緊急車両車庫に隣接して配置し、作業効率が上がるよう配慮します。

【通常時】

- ・緊急車両の朝の試運転・点検が容易にできるよう、車庫前に車長以上の前面スペースを確保します。
- ・車長の長いはしご車が容易に車庫入れ出来るよう、車庫前に視認性の高い十分な回転スペースを確保します。
- ・空気充填ポンプ庫を緊急車両車庫に隣接して設け、安全にポンペを保管・管理・出し入れが出来るようにします。

□非常時に利用がしやすい施設配置及び臨時的な敷地の利用計画

【非常時に利用がしやすい施設配置】
・来庁者の有無にかかわらず、消防・救急職員の緊急出勤時のスムーズな動線を確保します。上下・水平移動が最小となる、コンパクトな計画とします。

・出勤準備室を緊急車両車庫に近接して配置することで、緊急時の出勤が速やかに行えるようにしました。また、車庫内に十分な奥行きを確保することで人や物がスムーズに行き来できるよう配慮します。

・仮眠室を出勤準備室に近い階段に近接して配置することで、緊急時の出勤が速やかに行えるよう配慮します。

【汎用性の高い敷地利用計画】

・駐車場と転回スペースをその時々ニーズにより災害時の仮設やイベントスペース等多目的に使用できる広場として使用出来ます。

【臨時的な敷地の利用計画】

- ・敷地南側に広く駐車場をとることで、災害発生時応援の車両を駐車したり、避難者の受け入れ場所とするなど緊急時に活用できるスペースを確保します。
- ・緊急時災害対策本部を設ける大会議室を2階南に面し配置することで、敷地全体を視認し、受援態勢の確認や災害対応が容易となるよう配慮します。
- ・非常時に食堂・体力練成室・エントランスホール等を開放し避難者を受け入れることが出来る平面計画とします。

②消防業務の特殊性を考慮した執務環境、空間構造及び動線計画

24時間稼働する必要がある消防業務の特殊性に着目し、消防職員が常に快適に活動・執務できる環境づくりを行います。そのために、業務・生活スペースの通風・採光・騒音に配慮し、機能的連携を考慮した明確なゾーニングと動線計画を目指します。

□24時間稼働を支えるため健康的かつ効率的に執務できる施設

- ・各事務室は南面に配置し広く開口部を設けることで明るく開放的な執務空間となるよう配慮します。
- ・仮眠室やシャワー室を庁舎西側にまとめて配置することで、休息エリアのゾーニングが明快で騒音に配慮した計画とします。
- ・仮眠室は中で分けをし、出勤機会の違いに（消防と救急）対応することで職員の健康維持に配慮します。
- ・業務スペースと生活スペースを明快に区分するゾーニング計画とし、両者の間に階段を配置することで出勤距離が短くなるよう配慮します。
- ・来庁者ゾーンをエントランス付近にまとめることで出勤時動線が交錯しないよう配慮します。

□大量かつ特殊な装備や機材が適切に収納され、緊急時には迅速に機材にアクセスできる施設

- ・緊急車両車庫の西側に車両動線を確保し、警防資機材庫や車両関係資機材庫等に外部扉を設けることで、機材の搬出入を内部と外部の2方向から出来るようにします。

□将来の業務拡大・縮小・変更等を踏まえた機能的でフレキシブルな施設

- ・各部屋の間仕切り壁を極力非耐力壁や移動式のパーティションとし、事務室や会議室の床をOAフロアとすることで、将来の間取り・レイアウトの変更に対応しやすいフレキシブルな計画となるよう配慮します。

③消防力の維持・向上、住民の防災意識高揚

近年頻発する豪雨や大地震により、暮らしを守るための消防防災情報に対する意識が高まっています。そのため、消防庁舎を「消防職員の活動を発信する場」と捉え、職員の活動・訓練が見えやすい庁舎づくりを目指します。また、市民の防災意識の向上を図る庁舎づくりを目指します。

□火災・救助訓練可能な多目的高層訓練塔及び、震災・土砂災害を想定した応用訓練を可能とする総合訓練スペース

- ・訓練塔を庁舎北側に配置し、敷地北側の防災公園（整備予定）や既存の法面と一体的に運用することで、多様な訓練が可能となるよう計画します。

□住民を対象とした防災意識の啓発や講習等を実施できる施設

- ・訓練塔を防災公園（整備予定）と一体的に運用できる配置とすることで、消防職員の訓練の公開、市民参加のイベントや訓練が出来るよう計画します。
- ・大会議室を2階ホールに面して配置することで、来庁者が容易にアクセスできるよう配慮します。大会議室は組合議会、研修、講演、市民のイベント等多目的に使用され、防災意識の啓発や講習等に活用されます。

□円滑なコミュニケーションや指示の迅速な伝達が可能となる施設

- ・署長室や消防長室を事務室に近接して配置することで、各長と職員の円滑なコミュニケーションや指示の迅速な伝達が図られるよう配慮します。

④誰もが使いやすく開かれた庁舎

ユニバーサルデザインを採用し、高齢者や身障者、乳幼児連れの家族等、誰もが使いやすい開かれた庁舎を目指します。

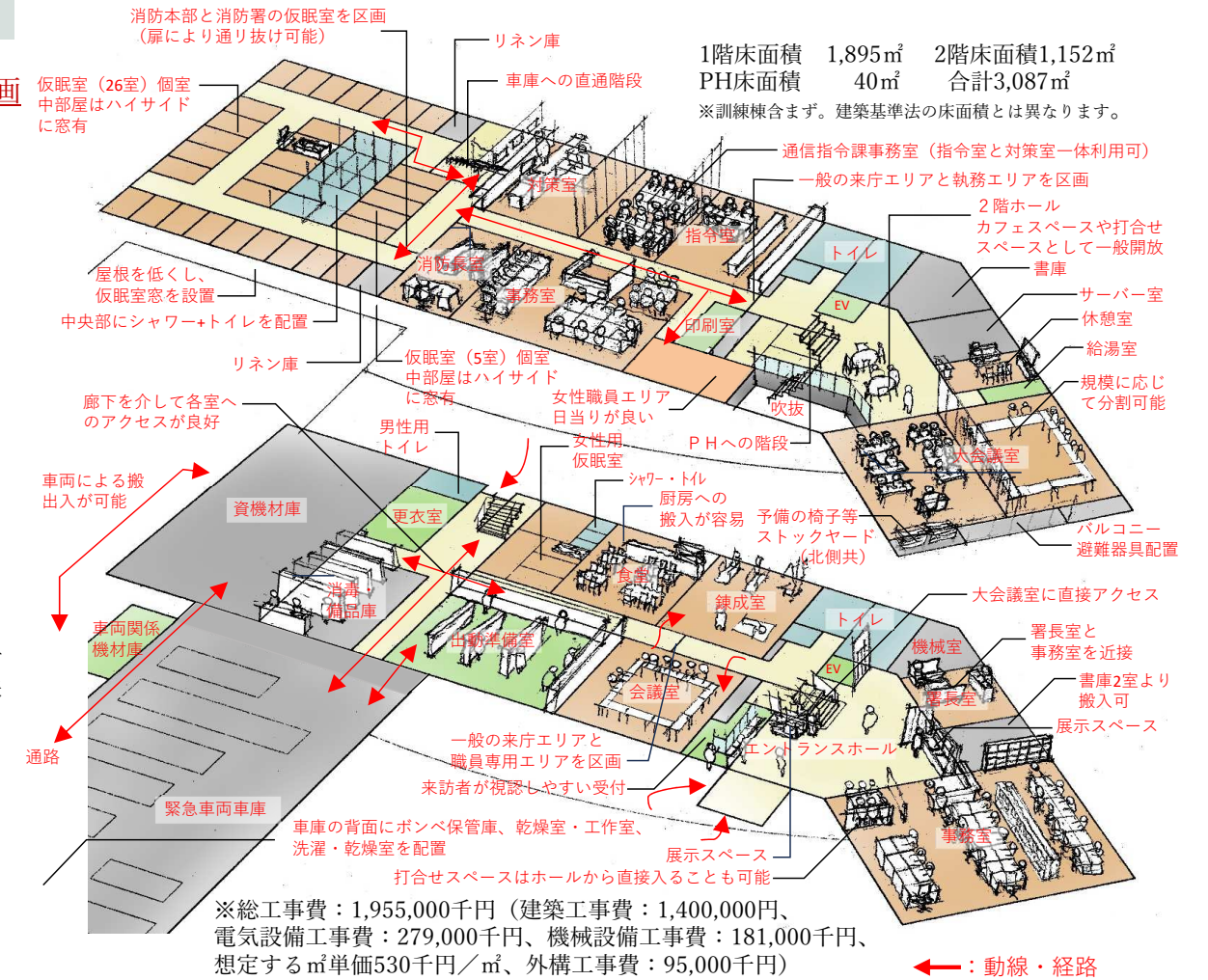
- ・緊急車両車庫西面上部に開口部を設けることにより、メインのアプローチより奥の森林へと視線が抜けた解放感ある計画とします。

□誰もが利用しやすい施設について

- ・建物の出入口に近接して来客用の駐車場を設け、車椅子利用者や身障者が建物にアクセスしやすい計画とします。
- ・1、2階ホールに近接して多機能トイレを設けることで、車椅子利用者や身障者、オストメイト利用者、乳幼児連れの家族等が安心して来庁できるようにします。
- ・本庁舎エントランス廻りは、吹抜けに面して透過性・視認性の高いカーテンウォールが内外の繋がりが開放性を意識させ、より入りやすい利用しやすい意匠とします。

□女性職員も働きやすい施設計画について

- ・消防職員における女性の増加傾向を踏まえ、女性用の仮眠室やシャワー室は独立して配置します。



⑤その他の配慮事項

□構造について

- ・本庁舎は消防署という用途に鑑み耐震性・耐火性・耐久性に優れた鉄筋コンクリート造とします。緊急車両車庫は用途に鑑み大きなスパンがとりやすい鉄骨造とします。
- ・構造体の耐震安全性分類は「I類」「重要度係数1.50以上」、大地震時、構造体の補修をすることなく建築物を使用可能で、人命の安全確保に加えて防災拠点としての機能確保を図ります。

□省エネ

- ・メンテナンスを考慮し、基本的にシンプルな仕上げを採用する計画とします。将来的な変更を想定し躯体を最小限にすることで自由度の高い変更が可能です。設備システムや機器は、修繕・更新のしやすいものを選定します。
- ・本庁舎建物は南に面して東西に開いたシンプルな建物形状とし、外皮面積が小さなパッシブデザインを意識して計画します。
- ・用途運用上24時間稼働する建物において、室内の人員密度は場所・時間帯により大きく変動する環境に効率的に対応する自動調光・自動空調制御システムを設け、執務動作を阻害することなくエネルギー消費を最小に抑える環境を整えます。併せて本庁舎屋上に太陽光発電パネルを設け、エネルギーを創出し、施設全体でNearly-ZEBを目指します。
- ・南西壁面に面する連続する開口部建具は、風を効率的に取込める縦出し窓を採用し、更に熱負荷をLow-E型複層ガラスで低減。窓上部にはライトシェルフを設け、室内深部の照度環境を改善すると共に直射熱を遮り空調負荷の低減を図り、ランニングコストを削減します。
- ・建設副産物の抑制により廃棄物処分費を削減します。

□災害時に強く環境に配慮した設備計画

- ・災害時に電力供給する太陽光発電+蓄電池を設置します。

